

美容師国家試験における基礎学力に関する一考察

— 学生の学習履歴を探って —

吉 井 さとみ

Consideration of Basic Achievement to Getting Qualifications as a Japanese Hairdresser

— Search for the Origin of Student's Scholastic Ability —

YOSHII Satomi

キーワード：読み・書き・算盤能力、9歳の壁、
学習環境

はじめに

美容師になるには、厚生労働大臣が指定した美容師養成施設（以降・美容学校）において（修業期間は、昼間課程で2年間以上、夜間・通信課程で3年間以上）学ばなければならない。卒業後に美容師国家試験を受験する（実際は合否発表の時点で卒業していることが、必要条件となるが受験時は卒業見込み証明書でも可）ことができる。国家試験に合格した上で申請し免許証交付となる。

昼間課程の美容学校に入学してくる学生は、原則、高校卒業者および同等の学識を有する者となっている。本校において2年間の修業をおえた学生の多くは卒業後、サロン（美容所・美容室）に就職し美容師としての第一歩をスタートさせる。法律上、サロンにおいて、美容師国家資格を持たない者はお客様に触れることはできず、学生にとってこの試験に合格することは必須であり、合格出来ないことは死活問題となってくる。そのため各美容学校においては、在籍中の学生の学習如何が問われることとなる。私は、本校の昼間課程に入学してくる学生に対し、美容師国家試験の筆記試験合格のための補習を実施している。

対象となる学生は、本校実施の学期末試験や検定試験において本校規定の評価基準を下回る者、

もしくはその周辺にいる学生である。対象学生は原則として補習授業を受けることになる。補習は授業終了後の放課後に実施され、1年次は週に1回程度実施し、2年次前半は週に2回程度、9月頃からは毎日実施される。

補習を始めてから短期間で成績を向上させ国家試験に合格していく学生がいる反面、かなり早い時期から補習を実施してもなかなか成績が上がらず国家試験においても不合格という結果に終わる者もいる。

補習クラスを担当していて、ここ数年特に感じることは、日本語は、それなりに使いこなせるが昔でいうところの“読み書き算盤”が苦手という学生が時々見受けられることである。読むとは、文字に書かれた言葉を正しく読み理解することであり、書くとは、文字を言語に合わせて正しく筆記することである。また、算盤とは本来は計算のための道具であるが計算そのものをさす。この“読み書き算盤能力”は人が思想、感情、意思を伝達し互いを理解する為に必要であり、ヒトはこれを駆使し社会にコミュニティを形成していく。日本では、この“読み書き算盤能力”は初等教育において身に付けてきているはずである。

大江孝男は『言語学』で次のように述べている。

「習得の過程を見ても、音声言語は成長の過程でいわば無自覚的努力によって自然に覚える

のに対し、文字言語は音声言語をある程度身につけた後にそれを基礎に学習をはじめ、意識的な努力を積み重ねて身につけるものである。これを怠ると文字言語を身につけることが出来ない。音声言語は近い所にいる人に対して用いるのが普通で、聞き手と共通の場面にいて、反応を見ながら伝達活動を行いうる。』¹⁾

初等教育や家庭において、この意図的努力の積み重ねを怠り文字言語があまり身につかないまま現在に至るとしたら、沢山の文字が羅列されている国家試験問題を読み解く上で支障をきたすのは当然のことであり、教科書の専門知識を読み解き理解する上でも困難が予想される。また、意図的努力の積み重ねは“読み書き算盤”の基本的能力の構築にとどまらず、長い時間同じ姿勢を続け学習することで他の事をしたいと思う欲望を抑制し我慢するというメンタリティーが築かれることとなる。とすれば、知識不足に加えて学習姿勢が維持出来ない等の問題を補習生が抱えているとしたら、テキストを前に「無理」「やっぱ無理」「出来ない」「頑張れない気がする」とため息を繰り返し、学習する歩みを止めてしまうのもうなずける。確かに、入学以前にスポーツ等で活躍してきた学生の多くは、筋力、精神力ともに鍛えられ学習姿勢を維持出来るためか、ぎりぎりのところで粘りをみせ、短期間で集中し結果を出している。

生涯の自立の糧にと“手に職を付けて飯を食う”といった職人であり、アーティストである美容の道を選択した学生達に、その第一歩である美容師国家資格を確実に取得させるためにはどうしたらよいか。意図的努力の積み重ねを怠ったまま、初等教育、中等教育を修了してきてしまった学生に2年間という短い期間で効率よく学習させる為には、どう取り組むべきなのか。

本研究では、補習実施方法を整理すると共に、美容師国家試験（筆記）において、合否のボーダーラインの基礎学力（読解力、計算力）はどれ位かを探ることを目的としている。また、その結果

を基に、前後に位置する学生の事例を示し比較することで不合格になってしまう学生の特徴を考察し全員を合格へと導く方法を探ることを主眼としている。

具体的には、数年前より年間数回にわたり学生全員に対し国語力（小学生の3年～4年生の問題を中心としたふり仮名テスト）や計算力（2桁から3桁の加減乗除）を確認するためのテストを実施している。その結果と、国家試験での自己採点の結果や国家試験の合否を比較し不合格になる学生の基礎学力（読解力・計算力）がどの程度であるかを分析し追究すると共に、基礎学力以外の問題点は何かを考察するものである。

第1章 美容師国家試験の概要

1 国家試験概要

美容師国家試験は年間2度実施され、筆記試験と実技試験の両方に合格し申請することにより、美容師免許を取得することができる。

筆記試験のみに合格した場合、筆記試験合格証明書を交付され、この合格証明書を提出することにより、次回（この合格した試験の次に実施される試験）に限り、筆記試験の受験が免除され、実技試験のみを受験することになる。この実技試験に不合格の場合は、その次の試験は筆記試験と実技試験の両方を受験することとなる。実技試験のみに合格した場合も同様で、実技試験合格証明書を交付される。この合格証明書を提出することにより、次回（この合格した試験の次に実施される試験）に限り、実技試験の受験が免除され、筆記試験のみを受験することになる。この筆記試験に不合格の場合は、その次の試験は筆記試験と実技試験の両方を受験することとなる。

2 筆記試験概要

筆記試験は5課目から50問出題される。内訳は、関係法規・制度（5問）、衛生管理（公衆衛生と環境衛生合わせて（5問）・感染症（5問）・衛生管理技術（5問））、美容保健（人体の構造及

び機能（5問）・皮膚科学（5問）、美容の物理・化学（10問）、美容技術理論（10問）である。出題は4択マークシート方式で行われ、時間は100分間である。採点は、1問2点で採点され、60点以上で合格となるが上記（ ）内の出題数の範囲において0点があった場合は不合格となる。以上を表1に示した。

表1 美容師筆記試験 課目と出題数

課目名	項	出題数
関係法規・制度		5問
衛生管理	公衆衛生・環境衛生	5問
	感染症	5問
	衛生管理技術	5問
美容保健	人体の構造及び機能	5問
	皮膚科学	5問
美容の物理・化学		10問
美容技術理論		10問
		計50問

3 美容師国家試験合格率

表2は、美容師国家試験全国合格率を2年課程に変わって最初の卒業生が出た平成12年度前期の第1回目から平成20年度前期の第18回目までを表記したものである。美容師国家試験が年間2度実施されることはすでに説明したが、通常前期は昼間課程学生が中心に、後期は通信課程学生や夜間課程学生が中心に受験することが多い。合格率は前期では70～80%を推移し、後期では50～60%を推移しているのがわかる。

次に実技試験と筆記試験の合格率を表3に示した。第1回目より表示したいところだが、入手困難なため手持ちのデータのみで表示した。年度によって、ばらつきはあるものの実技試験と筆記試験とでは、筆記試験の方が合格率が低いことが分かる。

本校の昼間課程において、不合格になった学生の追跡調査を行うと、卒業時に実技試験のみ合格している場合、半年後に筆記試験に合格出来ないことが多く、その為1年後にはまた実技試験と筆記試験の両方を受験している場合が多い。

表4では、全国の美容学校のうち比較的受験者の多い美容学校を抜粋し、平成13年度から平成16年度までの国家試験の新卒学生と既卒学生の

合格率を手持ちのデータで示した。新卒の学生に対し既卒の学生の合格率は極めて低い。その理由としては、次の様なことが考えられる。

新卒で受験し不合格だったものが既卒で再受験することになるのが大方であり、在学中の習熟度が低かったものが多いということである。その上卒業後は学習時間の確保が難しく学習環境が悪いと言える。

在籍中は各学校で差があるとしても、国家試験に向け演習問題や模擬試験などを繰り返し実施しており、学生は学友と競いながら嫌でも学習する環境に身を置き試験勉強に励むことになる。しかし、卒業後は国家試験講習会などに参加し学習をする、また、雇用されているサロンが試験対策をしてくれない限りは、ひとりで取り組まなければならない。ましてや新人の場合、覚える仕事が多く学習に費やす時間が取れないのが現状である。また、年数がかさめばかさむほど“手に職を付ける”部分での技の習得の必要が多くなり、始業前、始業後、休日等の多くを練習時間に割くこととなる。このため国家試験に向けての学習時間が思うように取れないことが原因のひとつとして考えられる。これを裏付けるかの様に後期試験（通信が中心）の場合、合格率は極めて低い。

次に筆記試験についてだけ考えると、美容師国家試験（筆記）は日本国内で実施される国家資格試験の中で、さほど難易度が高いわけではない。どこの美容学校でも在籍中、試験対策にそれなりの時間を費やし学習をさせているはずである。にもかかわらず不合格となり、その後何度も受験を試みても合格出来ない学生は、基礎学力低下が原因と予想される。

第2章 学力低下の実態

1 学力低下の実態

私は、美容という専門分野の学校において、教鞭をとっているが、小中高の教員免許を持っているわけではない。美容学校とは、美容師になるための専門知識を学ぶ高等教育の場であり、初等教

表2 第1回～第18回 理容師美容師国家試験合格率の推移

第1回 (平成12年前期)		第10回 (平成16年後期)	
受験申込者数	23,942人	受験申込者数	14,933人
受験者	23,255人	受験者	14,651人
合格者数	13,581人	合格者数	6,364人
合格率	58.4%	合格率	43.4%
第2回 (平成12年後期)		第11回 (平成17年前期)	
受験申込者数	19,182人	受験申込者数	29,840人
受験者	18,515人	受験者	29,501人
合格者数	12,667人	合格者数	21,984人
合格率	68.4%	合格率	74.5%
第3回 (平成13年前期)		第12回 (平成17年後期)	
受験申込者数	21,934人	受験申込者数	17,181人
受験者	21,734人	受験者	16,866人
合格者数	17,469人	合格者数	9,254人
合格率	80.4%	合格率	54.9%
第4回 (平成13年後期)		第13回 (平成18年前期)	
受験申込者数	13,301人	受験申込者数	29,207人
受験者	12,912人	受験者	28,958人
合格者数	8,657人	合格者数	23,861人
合格率	67.0%	合格率	82.4%
第5回 (平成14年前期)		第14回 (平成18年後期)	
受験申込者数	25,484人	受験申込者数	11,021人
受験者	25,213人	受験者	10,691人
合格者数	19,500人	合格者数	4,417人
合格率	77.3%	合格率	41.3%
第6回 (平成14年後期)		第15回 (平成19年前期)	
受験申込者数	15,116人	受験申込者数	27,669人
受験者	14,848人	受験者	27,429人
合格者数	8,065人	合格者数	21,734人
合格率	54.3%	合格率	79.2%
第7回 (平成15年前期)		第16回 (平成19年後期)	
受験申込者数	26,501人	受験申込者数	10,981人
受験者	26,179人	受験者	10,561人
合格者数	20,730人	合格者数	5,384人
合格率	79.2%	合格率	51.2%
第8回 (平成15年後期)		第17回 (平成20年前期)	
受験申込者数	14,782人	受験申込者数	24,154人
受験者	14,426人	受験者	23,872人
合格者数	8,007人	合格者数	19,299人
合格率	55.5%	合格率	80.8%
第9回 (平成16年前期)		第18回 (平成20年後期)	
受験申込者数	29,644人	受験申込者数	10,076人
受験者	29,387人	受験者	9,819人
合格者数	24,527人	合格者数	4,952人
合格率	83.5%	合格率	50.4%

表3 実技試験・筆記試験合格率

美容師国家試験	実技	筆記
第4回 (平成13年後期)	70.9%	75.9%
第5回 (平成14年前期)	88.3%	84.3%
第6回 (平成14年後期)	84.3%	58.1%
第10回 (平成16年後期)	77.1%	50.0%
第12回 (平成17年後期)	83.4%	60.2%
第14回 (平成18年後期)	69.6%	50.2%
第17回 (平成20年前期)	89.7%	86.9%

表4 新卒学生と既卒学生の合格率

	平成13年 (前期)		平成13年 (後期)		平成14年 (前期)		平成14年 (後期)		平成15年 (前期)		平成15年 (後期)		平成16年 (前期)		平成16年 (後期)	
	新卒	既卒	新卒	既卒	新卒	既卒	新卒	既卒	新卒	既卒	新卒	既卒	新卒	既卒	新卒	既卒
A美容学校	99.3	70.4	71.4	56.3			67.1	59.1	99.2	33.3	51.4	40.0	90.4	52.4	43.6	27.5
B美容学校	93.6	60.7	86.7	67.4			82.2	57.8	95.9	43.4	76.9	61.1	99.7	47.3	65.6	38.8
C美容学校	89.5	48.6	67.9	61.5			71.7	49.2	92.1	34.4	71.3	42.8	94.4	46.6	53.9	26.0
D美容学校	89.9	41.3	90.5	70.7			90.0	55.7	96.7	29.4	88.5	51.5	99.2	69.8	76.9	44.4
E美容学校	97.6	48.3	87.5	52.8			78.7	42.6	99.0	34.9	75.9	40.5	98.6	39.0	71.9	15.4

(単位 %)

育、中等教育をおえた学生を対象に授業が展開される。近年、マスコミ等で学力低下をテーマとした番組や記事の特集が連日のように組まれるようになり、その情報は否が応でも入ってくる。これらの情報から、当然本校に入学してくる学生にも“学力低下”の学生、“読み書き算盤能力”の低い学生が入ってくるとの認識は持っていた。ただ、現在、小中高の教育現場では、どんな教育がなされ、具体的に何が起きているのか認知できぬまま教壇に立ってきたのは事実である。

本校に入学してくる多くの学生は、通常の座学授業で理解を示し、校内で実施される各試験において自身の習熟度を確認し、その結果をうけて不足部分を自ら学習し美容師国家試験に合格できている。しかし、少子化による全入学時代の到来によるのか、推薦入学等で入学してくる学生の中には、本来受けてきているはずの教育を受けてきたとは思えない学生が現われて来ているのは事実である。ここに、その事例の一部をご紹介します。

2 学力低下—事例—

事例1) 1センチと0.1センチ

物理の計算問題を私と一緒に解いていた時のことである。設問の中に50cmや20cmをメートル単位に直して計算するところがある。

Aさんはそれが理解できない。理解させるために物差しの読み方から説明した。Aさんは、1cmと0.1cmは同じだと言ってきかない。最終的に理解できたが、分数も理解できないでいた。理解ができ分かり始めると、余程嬉しかったのか、周りの教師や友人に「ねえ！知っていた？1センチと0.1センチと違うって。」と声をかけ、周りか

ら「知っている。」と返ってくると「なんだ、知っているのか。」と落胆していた。

事例2) “不足”という漢字の読み方

1年生の衛生管理の授業が始まってから、数か月が経過したところである。学生に演習問題をさせながら私は学生の机の間を回り質問を受け付けていた。

「先生、これ何と読むんですか。」Bさんは大きな声で聞いてきた。指さしていた漢字は、“ビタミンの不足が原因で起こる病気に関する次の組み合わせのうち、正しいものを選びなさい。”という設問の“不足”という漢字だった。私が「ふそく」と答えると今度は「どんな意味？」と聞いてきた。

「足りないという意味だけど・・・」と答えながらBさんの表情を伺った。たまたま不足という言葉だけを理解できなかったのか、それとも読解力も低く内容を掌握し兼ねているのか様子を伺った。

「質問の意味が分かる？大丈夫？」と、あくまでもソフトにBさんの表情を読みながら問いかけた。中には、ふざけて私とコミュニケーションを取りたくてわざと質問をしてくる学生もいる。また、分かっているのに質問されたことで“馬鹿にされた”“恥をかかされた”と心外に思う学生もいる。質問をしたことが原因で後々クラスの中でBさんが馬鹿にされたり、浮いた存在になってしまっは困ると思い、Bさんの表情を伺った。Bさんは納得できていない様子だった為、私はさらに説明を加えた。

「体の中でビタミンが足らなくなった時、どん

な病気になりますか？正しい組み合わせはどれですか？という質問だよ。」と話をするとう納得し「なんだ、そういうこと。初めからそうやって書きゃいいじゃん。」と言い問題に取り組んでいた。

Bさんは、基礎学力低下が心配されたが他にも問題行動が目についた。それは、普通なら我慢できることが我慢できず簡単に癇癢を起こし文句を言ったり怒鳴ったり、壁や机を叩いたり蹴ったりすることが多かった。皆に一樣に情報を提供している多くの場面で、言葉の解釈に誤解が生じ、時々“馬鹿にされた”と感情的になり逆切れし、トラブルを起こしていた。明らかに言葉の認識不足によるコミュニケーションに行き違いが生じたものと推測された。トラブルが生じた時、言葉の意味を説明して勘違いであったことに気付かせるとスーッと血の気が引き、「なーんだ。そう言うこと。初めっから言ってよ。」と本来の人懐っこい甘えん坊のBさんに戻った。

事例3) 採点の仕方

担任から、Cさんについて、もしかしたら簡単な暗算が苦手かも知れないという報告をうけた。例えばクラスで何か少額の支払いが生じた際、Cさんは必ずお札を出すというのだ。ポケットには、いつも小銭が入っていてジャラジャラ音がしている。「小銭があるならポケットの小銭で払ってもらえると助かるんだけど・・・」と言うとポケットからお金は出すものの、そのやり取りに躊躇するというのだ。何らかの理由があり小銭が必要で貯めているだけなら心配ないのだが、もしかしたら割り算や掛け算だけではなく引き算にもクエスチョンマークがつくというのだ。まさかと思いつつCさんの様子をうかがっていると私の授業でも、その現実を目の当たりにすることになった。授業で過去問題を実施した際、採点の1問2点×題数の計算が出来ずに50問を1問ずつ全部順に足しながら数えていくのだ。

第3章 筆記国家試験対策

1 補習授業実施

本校では、前後期で実施される定期試験や検定試験（筆記国家試験合格を念頭においた学科検定試験）において成績の悪い学生に対し、無料で補習授業を実施している。その対象となった学生は特別な理由がない限り居残りし学習に励むことになっている。

補習は1年次では様子を見ながら週に1回程度実施し、2年次の夏休みまでは週に2度程度、夏休み明けの9月頃からは毎日実施している。1年次に様子を見ながら週に1回程度実施している理由としては、入学したての学生に対し初めから徹底した補習を実施することが、国家試験合格への道のりやハードルが自分にとって遠すぎるもの、高すぎるものという思いを抱かせることになりかねず、結果として美容の仕事そのものに挑戦する前に諦め退学してしまうことを懸念する故である。

2年次になると、1年次の終わりに国家試験に取り組む先輩の様子を見てきているせいか、漠然としていた国家試験への思いが現実のものとして受け止められるようになり“やるしかない”という確固とした思いへと変わっていく様子が見取れる。

2年次の4月から本格化したいところだが、年度当初は学年行事等で思うように補習に時間が割けない為、今現在の補習体制となっている。少なからず学生は、入学を機に環境が変わることで“新しい自分になりたい”“何かを変えたい”と思い入学してきているはずである。ビリだった学生が、補習授業での積み重ねにより、学習経験値を増し学習意欲を向上させ、学年で上位に位置するような成績を取れるようになることが少なからずある。そうすると自信が付き話し方や立ち居振る舞いまで変わってくるのである。“自分は生まれつきDNAが馬鹿”（学生の言葉）と思いこんでいる学生から“やれば自分にもできる”と意識変

革を遂げ、成績があがり周囲から羨望の眼差しで見られることにより更に自分に自信を付けていく。そんな姿を毎年見ていると、是が非でも、どんな学生にも、新しい自分への挑戦をして、変わっていく自分を経験体感させて、国家資格を取り卒業させたいと願う次第である。

2 補習クラスでの教授法

私が、筆記試験の補習を担当してから8年近くの歳月が経過した。担当するにあたり筆記試験の概要を知る為に、過去問題数年分をコピーし課目別に分類し問題を解き始めた。

私自身国家試験を受験してから歳月がたっていることもあり、当然分からないことが多く、社団法人日本理容美容教育センター発行の問題と解答、解説を参考にしながら教科書を読み解き数年分を終えた。終了後、さらにそれを綺麗に整理したく同じ問題をもう1度実施した。その際、赤ボールペンを使用し正しい回答と解説を記入した。これを自分用の“国家試験問題オリジナル参考書”とした。この作業を何度か繰り返したことにより、国家試験の全体の概要、ボリュームがより明白に把握でき、合格のポイントとなるものがみえてきた。

学生を国家試験に合格させる為に、これをどのように教授したらよいか思い悩んだ末、自身で作成した“国家試験問題オリジナル参考書”を学生に転写してもらうことにした。自身がそうであったように、まずは学生も全体の概要や5課目のボリュームを把握することで先の見通しが立てやすくなり、各課目へ取り組みがスムーズに行えるのではないかと考えたからである。

この、転写の効率性については、陰山英男の『学力低下を克服する本』²⁾の中で後日知ることになる。

“国家試験問題オリジナル参考書”を学生向けに作成するに当たり注意した点は、活字離れで教科書を読みたがらない学生にとって、文字が羅列されているテキストでは、それを見ただけで挑戦することすら拒否してしまうのではないかと懸念

し、出来るだけ簡単に答えやポイントだけを書き込んだものとした。また、難しい漢字にはふり仮名をふったり、意味を吹き出しで付け加えたり、暗記のための一覧表なども書き込んだ。

私は美容保健と衛生管理の授業を担当しているが、この2課目に関しては教科書の目次通りに過去問題を集め“国家試験問題オリジナル参考書”を作成している。

ここでその補習クラスで実際に行われる補習の流れをご紹介します。

1) 学生は“国家試験問題オリジナル参考書”と同じテキストを1ページずつ、問題をよく読み答える。次にそのページの“国家試験問題オリジナル参考書”を用い答え合わせと同時に、そこに書かれている解説を、赤ペンを使用し転写していく。5課目あるうち、どの課目から実施するかは基本的には学生の選択に任せるようにしているが、私の担当している課目から始めるケースが多い。転写の際、赤ペンを使用させる目的は、テキストに黒く印字された設問に対し、彩度の高いペンを使用することにより、より明確に答えや解説を脳裏に焼き付ける為である。学生によってはオレンジやピンクを使用する者もいる。

“読み、解き、転写する”学習法で読解力を高め、転写のスピードを速める。これは作業効率を高め、赤ペン使用によって多くの語彙を頭にインプットしていく。

また、学習する習慣のあまりない学生を毎日授業が終わった後に学習する環境に置くことで、少しずつ机に向かう訓練をさせる。とにかく否応なしに訓練が繰り返される事により、学習力のみならず、筋力や精神力を鍛え目的意識を持たせ国家試験に挑むという気構えを植え付けていく。

2) 1)で転写したテキストと同様のことをもう一度実施する。ただし今度は、自分が作成した“国家試験問題オリジナル参考書”を使用する。ここで、注意しているのにもかかわらず1)の転写をなぐり書きしている学生は自分の“国家試験

問題オリジナル参考書”が見つらいことに気付く。そこで友人や私のものを借りることになる。学生の中には極めて丁寧に整理してバランス良く転写している者がいる。自分のテキストと他人のテキストを比較することにより“文字”そのものや“文章”をバランス良く記録する意識が芽生えはじめる。これは、同時に暗記のためのマイノートを作成する際、見やすく綺麗なノート作りの参考となっているようだ。マイノートとは自分なりの情報収集ノートである。

この頃になると、多くの質問が出てくる。マイノートは、この質問に私が答え解説した内容や、教科書の内容、暗記のための表、なかなか覚えられない言葉、学生同士が情報交換したこと等々を記録するもので、使い方は自由である。“読み、解き、転写する”にさらに“調べ・整理する”が加わる。学生の様子を見ていると仕上がっていくノートに「賢くなった気がする。」と満足げで“やる気”が育っているように思える。

3) さらに、もう一度5課目の過去問題のテキストを、2)と同じように、先にやったテキストの古い順に実施する。ここで2)と違うのはこの時はすべてを転写するのではなく、何も見ないで2)の内容を書けるようにしていく。書けない場合だけ転写し、そこの個所を中心にマイノートを活用しながら暗記をしていく。

この頃になると、例年、補習生の中から学年で2～3位に躍り出てくる学生が必ずいる。成績が向上した学生からは「分かるってすごい。」「学ぶことって楽しい。」の声が聞こえる。“読み、解き、転写する”の反復と“調べ、整理する”勉強をすることにより「学んで面白い。」と思え5課目の問題の関連性が見え始め、必ずそれらが繋がる瞬間がくるのが分かる。

3 補習授業の考察

はじめに学生に“国家試験問題オリジナル参考書”を使い“読み、解き、転写する”の学習をさせた理由として、まずは学生に全体の概要や5課

目のボリュームを把握させる為と説明した。この全体を把握することに関して、細野真宏は自身の著書において次のように述べている。

「一般に、全体像を把握できれば個別の情報の意味が素早く分かるようになるので、情報の活用能力などが飛躍的に上がってくるのです。」³⁾

少ない情報量で経済ニュースが正確に分かる理由として全体像という視点を挙げ、全体像を把握できていれば個別の情報の意味が素早く分かるようになり情報の活用能力が飛躍的に上がっていくと述べている。

細野は一般的な勉強法を「 $Y = X$ 」的な勉強法とし、自身の勉強法を「 $Y = X^2$ 」的な勉強法と説明している⁴⁾。

「 $Y = X$ 」的な勉強法とは、知識をどんどん増やしていく勉強法。情報が一つ得られると、その分だけ知識が一つ増えるようになる」というものである。

「 $Y = X^2$ 」的な勉強法とは、「新しい知識」が得られた時に「それまで得られた知識」との関係を考えていく勉強法。情報が1つ得られると、その「新しい知識」がそれまでの情報と一緒に掛け合って飛躍的に多くのことが分かるようになる。」というものである。

補習生の行っている“読み、解き、転写する”の反復と“調べ、整理する”により情報量が増してくると、Aの課目の情報がBの課目のこの部分と関連しつつなっていることに学生自身が気付き始める。この繋がりが増してくると、国家試験の勉強と直接関係のない所に飛び火することがよくある。実際に自分が体験したことや見聞きした情報等と繋げて考えられるようになる。例えば社会状況であったり、インフルエンザや性病等の感染症に関してであったり、自分の生体に関することであったり、自分や身近な人が使用している化粧品や化学薬品のことであったり、技術的なことであったりと、次々と疑問が生じ興味がわいてくるのである。“面白いが繋がる瞬間である”これは

不思議とある日突然くるのである。以前はテレビ番組を見ている意味が理解できなかつたとか、ニュースが理解できないことが多かったが、「あつ、やった。わかる」と理解できている自分を不思議に思うと学生はいう。

私の実施している“読む、解く、転写する”作業は、記憶に必要な作業であり、繰り返すことで脳の中に点を置くこととなり、やがて点と点が繋がり結果的には全体像の把握になるのではないかと推察する。これは、細野の言う全体像の把握であり、“Aの課目の情報がBの課目のこの部分と関連しつながっていることに学生自身が気づき始める”は、「 $Y = X^2$ 」と似ていると言える。

ここでお断りしたいのは、これらは、細野式勉強法を導入した結果ではなく、学生たちに一つでも多くの知識を身に付けさせる為の試行錯誤が、偶然細野式勉強法に近い形になっていたのであり、7～8年前から学生自身が「面白いが繋がる」を体感して来ているのである。細野の論に触れて、私の勉強論に対する迷いが薄れ、少しずつ自信に変わり、それが学生に対する説得力に繋がって行ったのも事実である。

しかし残念ながら、上記の方法で、全ての学生が押し並べて飛躍的に成績が向上し早い段階で「面白いが繋がる」と歓喜の声を上げるわけではない。

“読む、解く、転写する”行為にしても、“調べ、整理する”行為にしても、進行状況にかなり個人差が見られる。学内での補習時間以外に連日帰宅後に何時間も机に向かう学生と全くしない学生とでは当然ひらきが出てくる。

個人的なひらきは残念ながら帰宅後の学習時間だけではなく、幼少期からの家庭での躰や親子関係等、また学生を取り巻く経済関係等様々な要因によっても異なるものと考察する。

初等教育、中等教育において意識的な学習努力を怠たり文字言語を構築できないまま現在に至ってしまった学生の場合、読解する能力が極めて低く問題を読み解きするのにかなりの時間を要する。そして、それは読解のみならず、単に書く、

写すという転写作業をとっていても、ある程度文章を暗記してから書き写すのと、漢字を一文字一文字確認しながら写すのとでは当然要する時間に差が出てくる。教科書を読み自分で調べる、暗記帳を作成するといった作業も同様のことが言える。

そのような学生を早期に見つけ出し、合格に目標をしばり、入学時から体制を強化し教育したいと思うが、前述したように学習の積み重ねは単に知識を構築するだけではなくメンタリティーを磨く要素も必要になってくる。学習の積み重ねが出来ていない学生は、挑戦する前に諦めてしまう傾向にある。

4 補習クラスのきまり

補習を行う上で、決まりごとが幾つかあるので、ここでご紹介したい。

1) 時間厳守

原則は時間厳守である。遅刻、欠席の際はその旨を、必ず自分の言葉で私（已むを得ない場合は担任）に伝えに来させる。その際、私に対して敬語で話させる。勿論、話す際の姿勢、表情など社会人として接客業に携わる者として、出来ない場合は指導する。

2) 正しい姿勢

補習中は原則として、頬杖をつく、机に顔を付けた姿勢、椅子の上で膝を抱えての三角座り等を禁止し、正しい姿勢を保つように指導する。正しい姿勢で授業を受けることで背筋、腹筋の筋力が強化されることを説明。美容の施術は中腰姿勢が多く、筋力を強化することで技術力向上にも繋がることを説明。また姿勢からくる骨盤のゆがみが体の不調に繋がる等は、美容保健の内容とリンクさせながら説明する。

3) 環境づくり

机の上は、補習に必要な道具以外は置かせない。学習をする上で気が散るもの（化粧ポーチ、鏡、財布、携帯、ドリンク等）は視界に入らない

ようにし集中力を上げる。

4) 挨拶

・音声言語の使用

学生の中には私を呼ぶ際に、手招きをする、手を挙げると同時に視覚でうったえる、自分の横を通るのを待っていて私の白衣を引っ張る等、言葉で伝達するのではなく視覚や動作で伝えようとする学生がいる。必ず“先生、お願いします”“来てください”など自分の言葉（音声言語）で伝達できるように指導する。

・補習終了時

補習終了時にバイト感覚で“先生！お疲れ様”と声をかける学生がいる。時間や環境を与えてもらうことを当たり前のように思い謙虚さに欠ける学生に対しては、自分が置かれている立場を理解させ、今までやってこなかった自分の為に、相手は自分の大事な時間を使ってきていることを自覚させる。終了時には私に対し“ありがとうございました”の挨拶をさせ教室を出るように指導する。

上記は、細かいようだが一般的な事であり、学習を向上させる事と同時に社会人として社会へ送りだすための基礎となるべきものである。この段階で出来ていない学生に対して注意を促し指導していく。

5 読み書き算盤能力テストの実施

国家試験直前には補習生のみならず学年全体に対しても、合格のための特別プログラムが組まれ合格に向けて強化授業が行われる。

その学習成果もあり、国家試験直前までには全員が国家試験過去問題における合格基準である60点は勿論のこと、75点以上はとれるようになり国家試験に合格出来ている。ただ、繰り返し過去問題を実施することにより問題に対しての答えの刷り込みが生じ、答えだけを覚えているので演習では90点～100点を取っているが、肝心の国家試験では不合格となってしまう学生もいる。

このように、多くの学生が習熟を見せ合格していく一方で不本意に終わる学生もいる。過去問題において得点を取りながら合否を二分するものは何なのか。補習を実施して気がつくことは、不合格になるものには根本に基礎学力の不足が見られ、それが波及するかのよう、処理能力の遅さ、意識の低さ、思慮の浅さが追い打ちをかけてくる傾向が目立つ。

美容師国家試験において合否を分ける基本的学力、読み書き算盤能力とは、どれ位のものなのかを知りたくテストを実施することにした。学生の読み書き算盤能力を把握する為、小学校3・4年生レベルの国語の読み問題（振り仮名）と算数の加減乗除問題を実施してみることにした。小学校の中学年の問題を選んだ理由としては、初等教育においては基礎学習を4年生頃までに終了し5年生・6年生では応用学習へと移行するため、読み書き算盤能力である基礎学習が確実にできているかどうか見極めるためには、妥当なのではないかと判断したからである。

テスト内容は、下記の問題を引用又は、参考にして作成した。

- ・『陰山メソッド 徹底反復 読み書き計算プリント〔国語・算数小学校3年生〕』陰山英男／宮本立男／(株)小学館
- ・『1日10題 小学4年 計算と漢字』学研／清水晃一／(株)学習研究社

上記のドリルを、そのまま引用するのではなくタイトルを「頭の体操」と命名し、試験監督である教員はストップウォッチで時間を計ることにより、テストという感覚ではなくクイズや脳のトレーニングといった遊び感覚でテストを楽しめるよう工夫した。

国語は1回の問題数を100問・実施時間は5分間、算数の加減乗除問題は2桁～3桁の筆算とし問題数は加（足算）25問、減（引算）25問、乗（掛算）12問、除（割算）8問を各2分で実施した。

“頭の体操”と命名したのは、本校の学生は高校卒業者及び同等の学識を有する者であり、新卒

の学生の他、経歴が異なる（主婦、社会人、短大や大学卒、他の専門学校卒等）学生も多く、「小学3年、小学4年のドリル」と印字された問題では抵抗があるのではないかという懸念があったことと、緊張せずに、解答する事で本来の力を発揮してもらい基礎力を出来るだけ正確に把握したかったからである。

上記の時間設定の理由は、出来上がりに大きな差が生じないように完全に全員が終わりきらない時間設定と考えた為である。簡単に短い時間で正解できる学生がいる一方で、万が一解けない学生がいた場合、その学生の教室での居場所が無くなるのではないかと、また苦手意識を植え付けることにより、これ以上学習嫌いにしないよう配慮した為である。時間を設定するに当たり教職員や、本校以外の学生に実施してもらい、終了時間を計算し割り出したものである。

算数の出題数に違いがあるのは、今回のテストでは反復のトレーニングが目的なのではなく、限られた時間の中で“読み書き算盤”の算盤部分（計算力）の基礎が確実に出来ているかどうかを見極めるのが目的なため、2分間で全員が最後まで終わらない題数設定とした。

国語の読みテスト（振り仮名テスト）NO1、NO2、NO3を資料1、資料2、資料3に示した。また加減乗除のテストを資料4、資料5に示した。

6 テスト結果と考察

表5は資料1（NO1）、資料2（NO2）、資料3（NO3）の頭の体操の結果（100点満点の成績）とその平均点を示した。表6では、算数の加減乗除の成績とその出題数を示した。70点満点の成績を、100点満点の国語の成績と比較しやすいように100点満点になる様再計算して表わしたものである。表7・表8は、表5国語成績、表6算数成績、国家試験の自己採点点数、国家試験の可否をベースに、表7では国語成績を昇順に表示、表8では算数成績を昇順に表示した。

今回用意したサンプルは、補習クラスに在籍経

験のある学生を中心に数年間分計80名である。

このテストの結果と国家試験の可否とを比較するに当たり仮説を立てた。

国家試験の問題は50問あり、そのうち計算を必要とする問題は、衛生管理という課目の〔消毒技術〕という單元において1問必ず出題される他、物理化学では0問～2問出題される。もし、算数が苦手出来ない学生がいた場合、国語力すなわち読解力さえあれば計算力は必要とせず4択マークシートの美容師国家試験であれば合格させられるのではないかと。

この仮説を基に分析を試みた。表7をご覧ください。#10以上の学生は、みな合格出来ている。そこで#1～#10までを表9に改めて表示した。

1) #1と#3について

#1と#3は国語も算数も成績が良くない。#1、#3は、卒業時期も異なり、出身高校も別である。共に学校生活という限られた空間のなかで、日常的な質問に対しては、ちゃんと答える。友人間でも普通に会話が成立しているように見受けられた。ただ、一緒に勉強をしていて感じたことは、組み合わせの問題等であれば暗記は出来るが、文節数が多くなり画数の多い漢字が羅列されると問題を理解するのに時間がかかっていた。いや、時間がかかっていたというよりは理解に苦しんでいたと言った方が正確かもしれない。

国語（ふり仮名）では学年全体で平均78%答えられ、80～100点をとる学生も多い中、#1と#3は常に30点～40点である。しかもケアレスミスで惜しかったというのではなく読めない漢字を飛ばして記入するため空間が多く、しかも最後まで行かないうちにテスト時間の5分間が終了してしまっている。小学校3年～4年生の問題でこの状態である。当然国家試験問題を読み解く上で支障をきたす。

例えば、国家試験問題の設問に対しての選択解答が、文節も少なく比較的短い文章で表記されていた場合であっても「て・に・を・は」が変わる

資料1

<p>頭の体操 NO1</p>	<p>東明ビューティーカレッジ監修</p>	<p>坂の上の住人は鉄橋工事に反対だ。</p>
<p>下記の文章の 部の下に、読み方を、ひらがなで入れなさい。</p>	<p>昭和時代には、戦争をしている暗い日々もあった。</p>	<p>昭和時代には、戦争をしている暗い日々もあった。</p>
<p>① 少年が太陽の下で羊とたわむれる</p>	<p>世界中の学者に、植物の葉緑体の配列や進化の研究を助け</p>	<p>世界中の学者に、植物の葉緑体の配列や進化の研究を助け</p>
<p>② 道路をわたって病院の医者が指定した薬局へ行く。</p>	<p>でもらった。</p>	<p>でもらった。</p>
<p>③ 楽勝を期待されていたが、一点を死守するのに終始していた。</p>	<p>⑭ 屋根が曲面になっている中央体育館で、短い開会式を行っ</p>	<p>⑭ 屋根が曲面になっている中央体育館で、短い開会式を行っ</p>
<p>④ 宮中の祭礼では、神様のために笛をふき、酒をささげる。</p>	<p>た。</p>	<p>た。</p>
<p>⑤ 日本の都や県は、米国の州にあたる。</p>	<p>⑮ 農業と、商業の両面から調整する。</p>	<p>⑮ 農業と、商業の両面から調整する。</p>
<p>⑥ 君主に意見を丁重に申し上げる。</p>	<p>⑯ 乗員の運転で、対岸の港に向かう。</p>	<p>⑯ 乗員の運転で、対岸の港に向かう。</p>
<p>⑦ 寒波の影響で急速に温度が下がり、湖の表面に氷がはった。</p>	<p>⑰ 畑仕事をすする父の手は大きく、皮が厚い。</p>	<p>⑰ 畑仕事をすする父の手は大きく、皮が厚い。</p>
<p>⑧ 区役所の第一の使命は、平等に問題を話し合うことだ。</p>	<p>⑱ 駅では係員が乗客の安全について注意を払っている。</p>	<p>⑱ 駅では係員が乗客の安全について注意を払っている。</p>
<p>⑨ 和服と洋服のどっちを着るか相談したが、両方持って旅に出た。</p>	<p>⑲ 夏の暑い日、水族館は身動きできないほど混んでいた。</p>	<p>⑲ 夏の暑い日、水族館は身動きできないほど混んでいた。</p>
<p>⑩ 投球練習をして、登板したが、運悪く代打に軽く打たれ、決勝で負</p>	<p>⑳ 有名な童話の文章を筆で書き写す。</p>	<p>⑳ 有名な童話の文章を筆で書き写す。</p>
<p>けた。</p>		

年 組 番 名前

頭の体操		NO2	東萌ビューティーカレッジ監修
1. 医学博士になる	博物館に行く	15. 全国的に晴れる	的を狙って矢を引く
2. 食べ物不足する	お菓子が足りない	16. この道具は便利だ	郵便で手紙がくる
3. 氏名を書く・源氏物語・氏神様		17. 青信号で渡る	信頼 信用 真実
4. 8時間以上眠る	睡眠学習は得意だ	18. 贈り物を包む	指に包帯を巻く
5. 命全に従う	命の大切さを知る	19. 実験に失敗する	すべてを失う
6. 山田夫人に会う	夫は優しい人です	20. その辺まで歩く	家の辺りに本屋はない
7. 欠点を直す・茶碗のふちが欠ける・欠陥商品		21. 明日は必ず晴れる	助けが必要ですよ
8. 疾病の予防に関する事項・人口動態統計・地域保健・憲法		22. 戦争が終わる	兵隊が先を争う
9. 速やかに届け出る・美容師の資格・地域保健法・国会		23. ニュースを伝える	伝記を読む
10. バッチを付ける	家の付近を歩く	24. 共通の言葉を話す	共に助け合う
11. 祭りに参加する	水を加える・いい加減な人	25. 新聞を印刷する	目印をつける
12. よい結果が出る	約束を果たす	26. 卵焼きが好物だ	別の町に引越す・友達と別れる
13. 松の木を植える	松竹梅の絵	27. 立派に成功する	我が国の成り立ちを調べる
14. 傷が治る・明るい政治・衣服を着る・持ち運びに便利		1年 組 番 氏名	点

頭の体操

NO3

東萌ビューティーカレッジ監修

14. 貴方の好みはどれ? 十分に栄養をとる。
15. 三人の子供を養う。安静にする。
16. 一輪車に乗る。輪投げをする。
17. 柿の種が芽を出す。説明を聞く。
18. 警察に訴える。漁業と農業。
19. 下水管工事。日本の国旗。
20. 箱根の関所。胃腸が弱い。
21. 季節の歌。私の愛犬。節分の豆まき。
22. 盲腸の手術。照明が暗い。
23. 雨でも試合続行。労働条件。
24. 地図で位置を確認する。
25. 良い印象。食料消費。
1. 工場の機械を動かす。新記録を出す。
2. 植物の分類をする。星の観察をする。
3. 恐ろしい体験をする。不思議なことが起こる。
4. 面積が広い。雪が積もる。鏡で自分を見る。
5. 顕微鏡をのぞく。お願いがある。
6. 念願の百点。厳しい競争に勝つ。
7. 競馬を見る。理科の実験。観光旅行。
8. 国会議員に選ばれる。徒競争。努力賞。
9. 水泳の選手。何億もの人が病気で苦しむ。
10. 作文課題は「美容器具について」。植物は根から養分をとる。
11. 皆で輪になって踊る。図書館で静かにする。
お湯がだんだん熱くなり沸騰した。
12. 目標を立てる。放課後の部活動。
13. 委員の選出。好きなものを選ぶ。

年 組 番 氏 名

頭の体操(NO 1)

東萌ビューティーカレッジ監修

(足算)

問1

	3	5
+	4	6

問2

	8	7
+	1	2

問3

	5	8
+	2	4

問4

	1	3
+	7	9

問5

	6	5
+	7	2

問6

	5	4
+	8	4

問7

	6	7
+	3	3

問8

	4	5
+	5	5

問9

	2	6
+	9	7

問10

	8	9
+	3	2

問11

	7	7
+	7	7

問12

	8	9
+	9	8

問13

		8
+	9	2

問14

	9	5
+		7

問15

	1	7
+	8	6

問16

	7	9
+	2	9

問17

	1	5
+	9	5

問18

	3	9
+	2	2

問19

	4	8
+	1	9

問20

	2	7
+	6	8

問21

	4	6
+	6	7

問22

	9	9
+	1	1

問23

	8	8
+	2	3

問24

	7	7
+	3	2

問25

	1	5
+	4	8

足算
点

(引算)

問26

	6	8
-	4	7

問27

	7	7
-	2	7

問28

	8	8
-	1	0

問29

	9	0
-	2	9

問30

	4	5
-	1	9

問31

	7	4
-	2	9

問32

	5	3
-	2	9

問33

	7	4
-	2	8

問34

	4	6
-	3	7

問35

	9	7
-	4	8

問36

	9	8
-	1	9

問37

	2	6
-	1	7

問38

	5	6
-	4	7

問39

	8	6
-	4	7

問40

	3	4
-	2	8

問41

	5	5
-	3	6

問42

	4	4
-	2	5

問43

	3	3
-	1	7

問44

	2	2
-	1	3

問45

	8	8
-	5	9

問46

	9	3
-	1	6

問47

	5	1
-	2	2

問48

	3	1
-	2	5

問49

	4	2
-		6

問50

	5	2
-		6

引算
点

年 組 番 氏名

資料5

頭の体操 (N02)

(掛算)

東萌ビューティーカレッジ監修

問1

		3	2
	x	2	4

問2

		7	3
	x	1	3

問3

		6	1
	x	1	5

問4

		5	3
	x	1	4

問5

		2	6
	x	2	5

問6

		2	4
	x	3	9

問7

		3	6
	x	2	5

問8

		2	2
	x	4	8

問9

		3	9
	x	2	6

問10

		4	3
	x	4	2

問11

		3	6
	x	7	2

問12

		4	8
	x	2	6

(割算)

問13

4)	5	6

問14

3)	8	1

問15

7)	9	8

問16

5)	6	5

問17

4)	3	8	4

問18

3)	2	1	9

問19

9)	4	7	6

問20

7)	5	2	3

掛算
点

年 組 番 氏名

割算
点

表5 国語（ふり仮名）

	NO1	NO2	NO3	平均点		NO1	NO2	NO3	平均点
	5分	5分	5分			5分	5分	5分	
#1	39	36	35	37	#41	71	96	83	83
#2	40	41	33	38	#42	80	86	82	83
#3	43	42	37	41	#43	87	87	74	83
#4	62	65	19	49	#44	87	78	86	84
#5	49	50	57	52	#45	85	82	85	84
#6	61	56	56	58	#46	95	82	76	84
#7	57	58	62	59	#47	80	86	86	84
#8	66	56	56	59	#48	87	79	87	84
#9	62	54	63	60	#49	87	83	81	84
#10	59	63	66	63	#50	88	89	79	85
#11	62	64	69	65	#51	95	68	91	85
#12	69	65	61	65	#52	97	72	90	86
#13	58	66	73	66	#53	80	82	97	86
#14	61	72	72	68	#54	89	88	80	86
#15	68	61	75	68	#55	92	84	83	86
#16	74	74	59	69	#56	93	87	81	87
#17	77	63	69	70	#57	83	88	89	87
#18	70	96	47	71	#58	78	89	94	87
#19	85	60	67	71	#59	91	88	86	88
#20	73	65	75	71	#60	94	81	88	88
#21	78	64	72	71	#61	87	88	89	88
#22	73	61	79	71	#62	95	91	80	89
#23	85	60	70	72	#63	93	88	87	89
#24	61	72	83	72	#64	84	88	94	89
#25	75	65	77	72	#65	89	96	84	90
#26	84	62	77	74	#66	90	83	96	90
#27	73	80	72	75	#67	96	89	88	91
#28	73	78	76	76	#68	88	91	94	91
#29	76	78	76	77	#69	88	88	98	91
#30	67	80	84	77	#70	82	92	100	91
#31	76	81	74	77	#71	93	82	98	91
#32	81	76	77	78	#72	99	85	91	92
#33	79	75	79	78	#73	95	100	85	93
#34	85	68	85	79	#74	83	95	100	93
#35	93	61	85	80	#75	92	90	99	94
#36	81	72	87	80	#76	98	100	94	97
#37	83	83	76	81	#77	97	98	98	98
#38	84	74	86	81	#78	98	98	99	98
#39	84	77	85	82	#79	97	97	99	98
#40	85	78	83	82	#80	98	98	100	99

※（100点）

表6 算数(加減乗除)

	足算 ／25問	引算 ／25問	掛算 ／12問	割算 ／8問	／70 点	／100 点
	2分	2分	2分	2分		
#1	7	4	3	1	15	21
#2	15	20	6	6	47	67
#3	1	3	0	0	4	6
#4	24	20	6	2	52	74
#5	25	25	10	7	67	96
#6	25	23	11	8	67	96
#7	23	15	8	5	51	73
#8	22	19	10	7	58	83
#9	14	8	4	2	28	40
#10	25	25	11	5	66	94
#11	24	16	10	5	55	79
#12	22	20	8	6	56	80
#13	20	20	9	6	55	79
#14	24	14	6	8	52	74
#15	16	12	5	6	39	56
#16	24	25	10	6	65	93
#17	23	14	10	8	55	79
#18	24	25	10	8	67	96
#19	25	9	5	5	44	63
#20	25	25	12	8	70	100
#21	24	21	10	8	63	90
#22	23	25	11	8	67	96
#23	17	5	9	0	31	44
#24	23	19	9	6	57	81
#25	25	25	11	8	69	99
#26	25	25	7	6	68	90
#27	25	20	10	8	63	90
#28	24	21	8	7	60	86
#29	25	20	9	8	62	89
#30	23	18	9	4	54	77
#31	22	25	11	6	64	91
#32	25	13	12	8	58	83
#33	23	16	10	7	56	80
#34	25	18	8	6	57	81
#35	24	13	9	8	54	77
#36	24	25	8	7	64	91
#37	25	15	10	7	57	81
#38	25	25	12	7	69	99
#39	22	24	11	8	65	93
#40	25	25	12	7	69	99

	足算 ／25問	引算 ／25問	掛算 ／12問	割算 ／8問	／70 点	／100 点
	2分	2分	2分	2分		
#41	25	25	12	8	70	100
#42	20	21	10	6	57	81
#43	24	25	12	7	68	97
#44	24	3	9	7	43	61
#45	24	24	11	7	66	94
#46	25	24	11	8	68	97
#47	25	18	8	8	59	84
#48	25	25	10	8	68	97
#49	25	16	9	2	52	74
#50	24	25	12	6	67	96
#51	25	22	9	8	64	91
#52	24	19	11	6	60	86
#53	23	24	12	8	67	96
#54	25	24	11	7	67	96
#55	25	25	12	8	70	100
#56	24	25	12	8	69	99
#57	25	8	6	8	47	67
#58	25	23	10	8	66	94
#59	24	15	10	8	57	81
#60	24	25	11	7	67	96
#61	25	23	12	8	68	97
#62	24	25	12	7	68	97
#63	25	24	8	8	65	93
#64	25	15	12	7	59	84
#65	24	25	9	6	64	91
#66	24	23	12	7	66	94
#67	24	25	12	8	69	99
#68	25	25	12	8	70	100
#69	25	25	10	8	68	97
#70	22	13	7	7	49	70
#71	22	25	9	8	64	91
#72	25	18	11	7	61	87
#73	25	25	8	8	66	94
#74	19	25	5	8	57	81
#75	24	25	10	8	67	96
#76	25	23	10	7	65	93
#77	24	25	10	8	67	96
#78	24	24	12	7	67	96
#79	24	18	12	5	59	84
#80	25	24	12	6	67	96

表 7

国語成績 (昇順)				
	算数 ／ 100 点	国語 ／ 100 点	自己 採点 国家 試験	
#1	21	37	46	(不合格)
#2	67	38	72	
#3	6	41	46	(不合格)
#4	74	49	56	(不合格)
#5	96	52	80	
#6	96	58	78	
#7	73	59	60	
#8	83	59	80	
#9	40	60	54	(不合格)
#10	94	63	80	
#11	79	65	78	
#12	80	65	86	
#13	79	66	84	
#14	74	68	86	
#15	56	68	88	
#16	93	69	88	
#17	79	70	80	
#18	96	71	90	
#19	63	71	86	
#20	100	71	78	
#21	90	71	78	
#22	96	71	78	
#23	44	72	86	
#24	81	72	60	
#25	99	72	78	
#26	90	74	82	
#27	90	75	90	
#28	86	76	86	
#29	89	77	88	
#30	77	77	76	
#31	91	77	78	
#32	83	78	86	
#33	80	78	84	
#34	81	79	84	
#35	77	80	82	
#36	91	80	84	
#37	81	81	92	
#38	99	81	78	
#39	93	82	86	
#40	99	82	80	
#41	100	83	86	
#42	81	83	80	
#43	97	83	88	
#44	61	84	90	
#45	94	84	86	
#46	97	84	62	
#47	84	84	84	
#48	97	84	90	
#49	74	84	78	
#50	96	85	78	
#51	91	85	84	
#52	86	86	78	
#53	96	86	84	
#54	96	86	82	
#55	100	86	80	
#56	99	87	88	
#57	67	87	82	
#58	94	87	76	
#59	81	88	78	
#60	96	88	80	
#61	97	88	80	
#62	97	89	80	
#63	93	89	84	
#64	84	89	72	
#65	91	90	98	
#66	94	90	78	
#67	99	91	94	
#68	100	91	78	
#69	97	91	88	
#70	70	91	84	
#71	91	91	78	
#72	87	92	90	
#73	94	93	90	
#74	81	93	72	
#75	96	94	90	
#76	93	97	76	
#77	96	98	88	
#78	96	98	88	
#79	84	98	88	
#80	96	99	76	

表 8

算数成績 (昇順)				
	算数 ／ 100 点	国語 ／ 100 点	自己 採点 国家 試験	
#3	6	41	46	(不合格)
#1	21	37	46	(不合格)
#9	40	60	54	(不合格)
#23	44	72	86	
#15	56	68	88	
#44	61	84	90	
#19	63	71	86	
#2	67	38	72	
#57	67	87	82	
#70	70	91	84	
#7	73	59	60	
#4	74	49	56	(不合格)
#14	74	68	86	
#49	74	84	78	
#30	77	77	76	
#35	77	80	82	
#11	79	65	78	
#13	79	66	84	
#17	79	70	80	
#12	80	65	86	
#33	80	78	84	
#24	81	72	60	
#34	81	79	84	
#37	81	81	92	
#42	81	83	80	
#59	81	88	78	
#74	81	93	72	
#8	83	59	80	
#32	83	78	86	
#47	84	84	84	
#64	84	89	72	
#79	84	98	88	
#28	86	76	86	
#52	86	86	78	
#72	87	92	90	
#29	89	77	88	
#21	90	71	78	
#26	90	74	82	
#27	90	75	90	
#20	100	71	78	
#68	100	91	78	
#36	91	80	84	
#51	91	85	84	
#65	91	90	98	
#71	91	91	78	
#75	96	94	90	
#16	93	69	88	
#39	93	82	86	
#63	93	89	84	
#76	93	97	76	
#10	94	63	80	
#45	94	84	86	
#58	94	87	76	
#66	94	90	78	
#73	94	93	90	
#5	96	52	80	
#6	96	58	78	
#18	96	71	90	
#22	96	71	78	
#50	96	85	78	
#53	96	86	84	
#54	96	86	82	
#60	96	88	80	
#60	96	88	80	
#75	96	94	90	
#77	96	98	88	
#78	96	98	88	
#80	96	99	76	
#43	97	83	88	
#46	97	84	62	
#48	97	84	90	
#61	97	88	80	
#62	97	89	80	
#69	97	91	94	
#25	99	72	78	
#38	99	81	78	
#40	99	82	80	
#56	99	87	88	
#67	99	91	94	

表9

学生	算数	国語	合否
# 1	21	37	不
# 2	67	38	合
# 3	6	41	不
# 4	74	49	不
# 5	96	52	合
# 6	96	58	合
# 7	73	59	合
# 8	83	59	合
# 9	40	60	不
# 10	94	63	合

／100点

と意味を違えて認識してしまい、それを理解させるのに時間がかかった。また、通常の授業においても黒板の活字を写す作業が他の学生と比べて遅く、それは、おしゃべりをしていて遅いと言うのではなく転写そのものに時間がかかっていた。大概の学生は、板書された文章を、ある程度まとめて覚えノートに書き写していくが、両者はそれが苦手で文節の度、あるいは漢字転写では1文字写すのに数回に分けて確認をしながら書き写していたため時間がかかった。またノート整理の仕方が雑で、後日内容を確認しようとした際、理解に困る写し方であることが伺えた。

過去問題などの文章中、誤っている文章箇所を正しい文章に直す作業（学習）では、ほとんどの学生は初めの1、2回手本を示すと後はテキストと教科書を読み解きながら自分で正解を探し、分からないところ、理解できないところを質問してくるのだが、# 1、# 3は自ら質問してくることはほとんど無かった。# 1、# 3共に過去問題の質問を読解するのに時間がかかり、さらに答えを教科書から導き出すことに時間を要した。

1、# 3に共通な点は、プリントのファイリングができず、大きなカバンや手さげ袋の中に大事そうに入っているのだが、全ての課目の幾日分かが一緒くたになっており、取り出すのに時間を要していた。

1、# 3は共に算数の成績も悪い。表10は、表6のデータのうち# 1と# 3を示した。

表10

学生	足し算 ／25問	引算 ／25問	掛算 ／12問	割算 ／8問	／70点
# 1	7	4	3	1	15
# 3	1	3	0	0	4

表10をご覧ください。# 1も# 3も足し算から躓き# 3においては、掛算も割算も出来ていない。

1も# 3も国家試験の演習問題の採点の付け方に特徴があった。本校では、演習問題を実施した際、隣席と答案用紙を交換させて採点をさせている。国家試験演習問題では、5課目ある科目の各欄にそれぞれの科目点を記入し総合点を記入することになっている。ほとんどの学生は、各課目の正解数に2点を掛け記入し、5課目分を足して総合点を記入する。記入に際しては間違いが無いように計算機の使用を認めている。計算機といっても今は携帯電話の計算機能を使う。簡単な計算であれば本来、計算能力の向上のためにも筆算もしくは暗算で計算させるべきだご指摘を受けそうだが、全部の学生にそれをさせると時間がかかり先に進めない為認めている。# 1・# 3の採点の仕方は、1問2点を1問ずつ全部足しながら数えていく方法である。回答用紙の正解個所に鉛筆を置きながら、順番に1、2（イチ・ニ）、3、4（サン・シ）、5、6（ゴ・ロク）と数えていく。トントン、トントンと鉛筆で答案用紙をたたく音に合わせ、首を縦に振りながら数えていく。その為、時間がかかってしまい、多くの学生が次の作業に移っている最中、数えている本人（# 1・# 3）は言うまでもなく彼らとペアを組んだ隣人までもが待つこととなり響きをかうこともあった。また採点の足し算にミスがあることもあり苦情が寄せられることもあった。# 1、# 3は、美容師国家試験に向けて今まで経験したことがないほど学習に時間を費やし勉強したと話す。事実、補習においても休むことなく学習を続けていた。しかし、国語のふり仮名テストの結果が示すように国語（読解）力低下が国家試験問題を読み解く上で支障をきたし致命的になったことは言うまでもない。さらに算数（計算）力の低下なども加わ

り“問題を読み解く”基本的学習に支障をきたすばかりか学習に付随する作業（例えば読む速さ・書く速さ・写す速さ・採点を計算する速さ・プリント類をファイリングする速さ等）等の情報処理にも時間がかかり、学習効率を大きく下げるものと考察する。冒頭に記載した意図的努力の積み重ねによる文字言語の獲得の遅れが招いた結果ではないかと考察する。

○# 1

1は口数の少ない学生であった。技術担当の教員からも# 1については技術で必要となる何度という角度や、垂直、平行の意味が理解できないのではないかと。それが原因で技術の学習においても向上に支障をきたしているのではないかと懸念もきかれた。# 1は簡単な組み合わせの表等もなかなか覚えられず、すべてに時間がかかっていた。宿題もやってこず、そのことについて叱っても、だんまりを決め込んでしまうため、「今日こそ家でやって来て」というと「はい」と返答はあるが、やってくることはあまりなかった。

○# 3

3は学科の定期試験や各試験においても成績が悪く入学当初から居残り勉強をさせていた。成績が悪いこと、勉強しないことを親に咎められているらしく“学科の成績が悪く、現状では国家試験の合格が無理である”類の内容が学校から親に伝わると退学をしなければならないと担任にその旨を話し、試験のたびに戦々恐々としていた。# 3について、実技の担当教諭から実技試験において焦ったり慌てたりすると予想もつかない失敗をすると聞いていた。もしかしたら、学科でも同じ事が言えるのかと思い国家試験の勉強ではなく加減乗除の学習をマンツーマンで実施したことがある。# 3は全く出来ないわけではなかった。繰上げ繰下がりの一部、また掛算においても例えば 9×6 がスムーズでなくとも 6×9 はできるなど、時間をかけゆっくりゆっくり行い、間違っている

箇所を指摘し、やり直させると出来た。ゆっくり落ち着いてやると、少なからず、表10の様な結果ではないと言える。

私が# 3と加減乗除の学習をした際「自分が中学や高校で数学が理解できなかったのは、これが原因なのかもしれない。」とポツリと呟いていたのが印象的であった。# 3は、私の加減乗除の宿題に対し必死でやってきた。アパート住まいで狭く、自分の部屋や机が無く、家族と食事をするテーブルで他の兄弟の目を避けるようにして計算問題をやっていたことを後で父兄から聞き知ることとなった。

2) # 2と# 9について

興味深いのが# 2と# 9の結果である。表11は、表7の国語昇順データのうち# 2と# 9を示したものである。

表11

学生	算数	国語	合否
# 2	67	38	合
# 9	40	60	不

／100点

2の国語(38点)は# 9(60点)より悪いのにもかかわらず合格できている。そして、注目したいのが算数の成績が国語のそれとは逆転していることである。# 2の算数は67点、# 9の算数は40点である。不合格となった# 9の国語(60点)成績は、合格できた# 2(38点)より良いばかりでなく、# 5(52点)、# 6(58点)、# 7(59点)、# 8(59点)よりも良い。しかし算数で見ると上記# 2、# 5、# 6、# 7、# 8よりかなり点が低い。これは何を物語っているのか。初めに立てた仮説の“美容師国家試験合格の為に、国語力すなわち読解力さえあれば計算力は必要としないのではないかと”というのは成立しないということである。そこで、算数の成績と国家試験の合否との関連性を分析することにした。

表12は表6の算数(加減乗除)データのうち# 2と# 9を示したものである。

表 12

学生	足し算 ／25問	引算 ／25問	掛算 ／12問	割算 ／8問	／70点
# 2	15	20	6	6	47
# 9	14	8	4	2	28

○# 2

2は足し算の成績が悪い。一般的には足し算と引算を比較した場合、足し算の成績の方が若干良いのが普通である(表6参照)。# 2の足し算の解答を分析してみると17問解き正解が15問であった。足し算テストに引き続き、引算テストが実施されたが、計算が苦手な# 2に慣れが生じた為、引算の成績が良くなったものと推測する。また# 2は掛算(6問/12問)、割算(6問/8問)でも正解できており計算に時間を要するが他の学生と比べて大差はない。# 2は、1年次より補習を受けていたが、2学年の中盤から成績を向上させた。尋ねると連日、夜中の1時2時まで勉強をしているという。家族から「今まで学習することをサボっていたのだから、人生において今勉強しないでいつ勉強するんだ!」とか「落ちたら家族の恥!」と檄を飛ばされ、それを受けて必死になって勉強に励んでいた。# 2の話から家族の応援を、素直に受け止め励んでいる様子がかげえた。国家試験の数カ月前には補習を卒業し過去問題のテストにおいても学年で2位、3位を取るなど成績の向上を見せた。

○# 9

一方# 9は、加減乗除の結果で見ると、足し算、引算(8問/25問)、掛算(4問/12問)、割算(2問/8問)と加減乗除全てにおいて成績が悪い。2分間の時間内で満点を取れる学生がいる中、# 1、# 3に次いで算数成績が悪い。当然入学直後から補習を行っていた。# 9は、補習当初から「どうせ自分は馬鹿だから」「生れつきのアホだから」を連発していた。1年次の補習は週1~2回程度、雑談を交えた補習には休むことなく楽しそうに参加していたが2年次の後半になり毎日集中力が求められる徹底した補習が始まる

と強制される事にいらだちを見せ始め、理由を言っただけでは休み始めた。# 9は幼い頃から、厳格な父から成績が悪いことや勉強をしないことで叱責され、そのことで友人や兄弟と比較された事に反発、喧嘩が絶えなかったと話す。また、その原因を、いつも自分を擁護してくれる母親の責任とする父親に対し、さらに批判を強めていった。国家試験には合格したいが自らが勉強することは、勉強をさせたいと願っている父親の筋書きに填まることであり許せないと父親批判を繰り返した。国家試験合格に向けて本格化してくると、私も檄を飛ばし俗にいう“飴と鞭”で指導を強化していくが、その姿が父親とかぶり拒否したくなるらしかった。国家試験間近になると学習を続けた学生が一気に成績を向上させる。# 9は、精神的に追いこまれ始めると言い訳をしては逃げ、自分を正当化して楽な道、楽な道へと舵をとっていた。その軟弱なメンタリティーが父親の批判となるところで、やりもしないで逃げていることに対し父親が心配し立腹していることを伝えると国家試験間近になり親子関係が少し改善され、若干ではあるが自分と向き合うようになり、やる気を見せた。同時に一気に成績が向上した。

また# 9、# 4は共にマイカーを所有し、休日や夜間仲間と連れ立ってドライブに行っているようであった。国家試験直前の休日明けに宿題が終わっていないことを問いただすと、自宅学習ではなく友人との遊びを優先したことを白状した。

親子関係が円滑でない家庭の学生は、親のいる休日や夜間に自宅にいることを避け、アルバイトや遊び等で外出する傾向があり、# 9ももしかしたら親との摩擦を避けるために遊びを優先させたのかもしれないと後で思った。

9は、物事に対しての取り組みや考え方に甘えがあり小学生が体だけ大きくなってしまったような印象を受けた。

3) # 2と# 4について

2と# 9の比較では、# 9は算数の成績が悪く国家試験不合格となっており、# 4は国語と算

数共に#2よりも成績が良いのに国家試験不合格となっていることが興味深い。この原因を算数の見地から比較分析してみることにした。表13は、表7のデータから、表14は表6のデータから#2と#4を示したものである。

表13

学生	算数	国語	合否
#2	67	38	合
#4	74	49	不

／100点

表14

学生	足し算 ／25問	引算 ／25問	掛算 ／12問	割算 ／8問	／70点
#2	15	20	6	6	47
#4	24	20	6	2	52

表9にあるように#1から#10までの算数の点を比較すると、不合格となった学生の成績は#4以外押し並べて悪い。逆にいえば合格した学生は皆算数の成績が良いが、#4は算数が良いのに不合格となっている。

#4は、足し算(24問／25問)、引算(20問／25問)の成績は良い。掛算では(6問／12問)と#2と同じ正解率であるが、割算の正解率が(2問／8問)と極端に低い。#4も「自分は馬鹿だもん」を連発し、授業中の音読では正しく読めないことが多く、周りから笑いが起こりイライラしていたことを記憶している。割算が出来ない躓きが引金となって、その頃から勉強嫌いが始まったのではないかと推測する。#4は、高校までスポーツ系の部活に籍をおき活躍を見せており、そのためか直前では短期間で集中し暗記をしていたと記憶する。ただ、マイカーを所有して夜中に仲間と連れ立って車で遊ぶことが多く、取り組み不足が挙げられる。#4は不合格になったものの半年後の試験で見事合格出来ている。

#4の割算成績結果を踏まえ、国家試験不合格者と割算の関係を考察すると、#1、#3、#4、#9の割算の成績は1点、0点、2点、2点といずれも成績が悪い。本校では本論文のケーススタディ以外にも頭の体操(計算)を実施しており、その結果においても割算成績は悪かった。

次に合格者の中で割算の成績が著しく悪い学生を対象に、その学生についてケーススタディを試みることにした。

4) #23と#49について

表15は、表7のデータのうち#23と#49を示したものである。両者ともに国語の成績が高く国家試験は合格出来ている。

表15

学生	算数	国語	合否
#23	44	72	合
#49	74	84	合

／100点

次に表16に表6のデータのうち#23と#49の成績を示した。

表16

学生	足し算 ／25問	引算 ／25問	掛算 ／12問	割算 ／8問	／70点
#23	17	5	9	0	31
#49	25	16	9	2	52

特に#23は引算の繰下げ算を苦手とし割算が出来ない。やはり#23も#9や#4と同じように自身のことを「自分は馬鹿だから」「生れつき出来ないままきたから」と口にする事が多く、算数を必要としない職業は何かと考えた挙句、美容師という職業を選択し本校への入学を決めたと言う(後述)。

#49については国語が比較的良かったためか補習候補ギリギリのところまで踏みとどまっていた。

5) #76について

割算成績を別の視点からもう1つ挙げるとすると#76である。#76は国語成績で言うと97点で上位の成績であり算数は93点と良いが、定期試験において入学時より基準点が取れず補習を受けていた。

物理化学の補習の際、テキストの1ページ目から物理の計算問題が並んでいるのを前に、ため息ばかりついてやろうとしない。解き方を私に聞く

でもなく、計算を飛ばして先へ進むでもなく、他の勉強をするでもなく、注意をすると「今やるから・・・待って」を繰り返すばかりで、すでに2～3日経過していた。私が「教えるから一緒にやってみよう」と声がけするが#76からは「無理、無理、無理」の言葉が返ってくる。「小学校で使われる加減乗除が出来ていれば解ける問題だから、多分計算の仕方を忘れていただけだから一緒にやってみようよ」と話しかけても「割算、出来ないもの」とふさぎ込む。国家試験まで追い込みを強化するにはまだ間があると思っ少し様子を見ていたが、#76は5日間テキストとにらめっこしていた。その間、計算が苦手であれば、計算問題は出題される数が少ないから、計算だけとばして先に進むように促しても、自分の性格は順を追って進まないと思得できない性分だからと頑としてテキストとにらめっこをしてやろうとしない。5日目以降に、私が再度アプローチをかけた際、周りにいた学生の一人が「自分も出来なかったけど、先生から教えてもらって出来るようになったから、やるだけやってみれば」と声をかけてくれた。それを受けてまた別の学生から「自分も同じだった。分かって面白いよ」と声がした。#76は「じゃあ、やってみようかな」とししぶ計算の勉強を始めた。前述したように#76の算数の点数は93点と良い。加減乗除の内訳も足し算(25問/25問)、引算(23問/25問)、掛算(10問/12問)、割算(7問/8問)と良い。この「頭の体操」の成績は本人から希望がない限り結果は教えていない。一緒に計算を試みて分かったことは、#76は小数点の割算が出来なかったということである。すぐにできるようになり#76の口からは「私って本当は出来る子なのかも知れない」という言葉が聞かれた。この言葉は、加減乗除の結果を知って、担任が#76のやる気を起こさせるために、常に声がけしていた言葉である。

その後の#76は、化粧品化学の薬品名、消化酵素名、ホルモン名等、皆が一様に苦手とするカタカナ語の暗記をし、友人とともにぺらぺら

と暗唱し始めた。その様子に他の補習生からは「#76がぺらぺらと暗唱しているのを見ると焦るね。」等の声が聞かれ、補習クラスでは羨望の眼差しで見られるようになった。その頃を境に#76は、学年でも上位に位置するような成績を取り、周囲の学生や教員からも「すごいね」と声をかけられるようになった。どこか“ぼわっ”とした“私ダメかもしれない”という自信なさげな表情や歩き方から、いつの間にか“きりっ”とした自信のある表情に変わり、幾分ではあるが行動もきびきびと変わっていた。

#76にとって“割算の小数点が付く計算ができない”ことがイコール算数、数学が出来ないに繋がり、さらに“自分は勉強が出来ない”と思っこんでしまっていたことが#76の学習意欲を低下させていた原因と考えられる。

6) #23と#45について

#23(前出)と#45は友達同士である。二人とも定期試験においては赤点が多く1年次より補習を受けていた。#23、#45の成績を表17・表18に示した。

表17

学生	算数	国語	合否
#23	44	72	合
#45	94	84	合

／100点

表18

学生	足し算 ／25問	引算 ／25問	掛算 ／12問	割算 ／8問	／70点
#23	17	5	9	0	31
#45	24	24	11	7	66

#45は、1年次に定期試験や検定試験において学年で最下位か下から2位くらいの位置で、いつも赤点を取っていた。

1年生の終わりの頃、私が勉強やっている？と聞くと、「先生、何とかしなくてはと思って、私だって一生懸命やっているよ。お母さんと一緒に教科書を読んで問題を解いているけど、でも、お母さんも分からないって・・・。自分でもどうしたらいいかわからない。」との返答。

2年になり後半補習日数が増え始めた頃からめきめき成績を向上させ、学年で1位、2位の成績を取るようになり、一番に補習クラスを抜けた。

ある日、この二人が基礎学力を垣間みる会話をしていたので、ここで紹介したい。

#45：先生、昨日二人で映画を見に行ったの。以前は一度映画を見ただけじゃ内容が分からなかったけど、昨日は分かった。ここで勉強した効果だと思う。

吉井：洋画の字幕は、映像を見ながら文字を読むから大変だからね・・・活字に慣れたんじゃない？

#45：ううん日本の映画だよ！邦画っていうの？

吉井：えっ！本当に今まで分からなかったの？
(二人で顔を見合せ、照れくさそうに笑った。)

#23：すごいの！先生。最近、テレビの内容が理解できるようになったの。理解できている自分が不思議で・・・勉強した甲斐あったわ！

吉井：よかったわね！

#45：日本語って、むずいじゃん！
先生！この前、バイト先のサロンでヘアカラー剤を1:3で作ってくださいって言われて、私1:3って分からなくて・・・。

吉井：どうしたの？大丈夫だった？

#45：サロンの先輩が、丁寧に教えてくれて出来るようになった。

#23：えっ！私、算数がないと思ったから美容師になろうと思ったのに算数必要なの？

第4章 基礎学力低下と補習学生の背景

本論文の研究において、実施したテスト分析とケーススタディを基に、美容師国家試験における基礎学力を次のように考える。

① 不合格になる学生は、明らかに国家試験問題を読み解く為の読解力が不足していると言える。当然、国家試験問題に限らず、その知識の基本となる教科書を正しく理解すること

ができないわけである。これは日本語を互いに共通認識する為の文字記号（漢字・カタカナ・ひらがな）や文法の習得不足が原因であり、この為、文節の短い文や組み合わせの問題は解けるが、長文になると意味が理解できなくなるのが現状である。設問の内容を読んで考える以前に“読む”こと（言葉を変えて表現すると羅列される日本語表記を目で追うこと）に時間をとられ、さらに読んでも理解できないことで、4択の過去問題では山勘で答える、書き込みの演習問題では白紙の解答が多いものと考察する。

② 算数の加減乗除の成績では“加・減・乗・除”のどの段階で躓いたかが重要であり、躓いた時期あたり（それを教わる学年）から勉強嫌いや学習全般への遅れが始まっていると推測する。躓いた時期が早ければ早いほど、苦手意識が先行し“成績が悪いのは生まれつき”と思い込み、学ぶことを諦めたり、放棄してしまったりしているように見受けられる。また、親からの成績についての叱責や周囲からの冷笑などにより凝り固まってしまった苦手意識の心を溶かし、苦手意識を払拭させ、意図的努力の積み重ね不足が現在の自分をつくっていることを自覚させるには時間とエネルギーを要する。努力を積み重ねることにより、成績が向上することを体感し結果として現れるまでには、2年間という在籍期間では限界があるのではないかと考察する。

③ 上記①、②の学生の場合、学習経験値が低く国家試験の“全体のボリュームを把握する”ことが難しい。これは第3章2に記述した国家試験内容の全体像を把握することではなく、国家試験に合格出来るまでの自身の学習量がどれくらいあるのかの把握が出来ない。本人は補習や自宅学習において今までにない学習量をこなす十分に勉強をした気分になっているように見受けられるが、私たちの目か

ら見ると入口付近でうろついている程度にしか見えないといった具合である。

- ④ ①、②の既述通り、読解力や計算力の習得不足は、国家試験問題を読み、解き理解する上で、学生にとって大きな障壁（第一の弊害）となる。また、同時に発生する学習上の様々な機能（読む・書く・転写・計算・整理等の処理）の低下は学習を進める上で、“他者より何をやっても遅いという否定的な自分”を自身で印象付け“やる気”を失わせてしまい更なる学習の障壁（第二の弊害）となると考察する。
- ⑤ 自分に対しての甘えや精神面での弱さが目立つ。ルールや約束事が守れず、守れなかったことを注意しても、叱られ慣れしているのか“はい”と聞き流す。自分のわがままが通らないと、癩癩をおこし物に当たり、暴言をはいたり、泣いたり騒いだり、言い訳を言っただけで学習することから逃げる等の行動が見られる。

齊藤孝は雑誌の子供を対象にした特集で次のように述べている。

「さて、勉強はなぜするのでしょうか。勉強もまた心を整える訓練なのです。勉強するには、長い時間同じ姿勢を続けねばなりません。動き回りたいという、つらい気持ちを抑えて我慢する。その我慢するというメンタリティーが磨かれるのです。“我慢がきかない”と言われる子どもは、その訓練が足りないだけ。また、勉強がストレスになるのではなく、勉強して我慢を覚えることで、ストレスにも強い心を育てるのです。」⁵⁾

毎年補習クラスにおいて、最初に行う取り組みは、学習するメンタルを強化するために、15分として座ってられない学生を、後5分、もう5

分と少しでも長い時間集中出来るように訓練させることである。この訓練の結果、最終的には学業のみでなく、精神面も鍛えられ、上記のような行動パターンも改善される。小学校の低学年なのだろうかと思える幼稚な学生が、卒業のころには数段大人になったと感じ取れるのも事実である。

- ⑥ 勉強に取り組めない理由として、親子関係に確執がある場合が考えられる。過去に勉強や生活習慣等のことで親から叱責されたり体罰を受けていたり、兄弟や友人と比較されたことに不満を抱いているなど、親との関係に何らかの葛藤がある場合、反発心から素直にポジティブに頑張ろうとやる気になれないことが考えられる。

第5章 国家試験不合格とその責任

最近、美容関係のホームページを見ていると、美容師国家試験において不合格者を出すのは美容学校の責任であり、各美容学校で責任をとるべきだと書かれているのを目にすることがある。はたして、美容学校だけの責任といえるだろうか。著しく“読み書き算盤能力”の低い学生を見るたびに、親は何をしていたのか、今まで接してきた教員は気が付かないわけではないだろう、何故ここまで放置したのかと腹立たしく思う。せめて小学校5年生くらいまでの“読み書き算盤能力”を身に付け、いろんな経験を積み重ねて来てくれたら、合格させられるのにと悔やまれる。

将来の自立を考え、美容という世界が好きでアーティストを目指し入学してくる学生がいる一方で、勉強が苦手な医者や弁護士にはなれそうにないから“手に職を付けて飯を食う”仕事を美容師と考え選択し入学してくる学生もいる。

特に後者の学業が苦手な自立の手段として“手に職”と考え選択した学生に、2年間という在籍期間にその自立のための入口切符である国家資格を手にするだけの実力をつけさせて卒業させられないこと深く反省する次第である。私自身が、親

や今まで接してきた教員に対して、何故放置してきたのかと腹立たしく思うように、その学生を受け入れてくれたサロンや会社は、「美容学校は何をしているのか。」と腹立たしく思っていることであろう。

著しく“読み書き算盤能力”が低下している学生に出会うたびに、以前から私の中で気になっていた“9歳の壁”というキーワードが頭に浮かぶ。

大江孝男は『言語学』の中で“9歳の壁”をこのように説明する。

「言語形成として関連して問題になりえるのは、聴覚障害児の「9歳の壁」といわれる現象と経験的に言われている言語環境による言語の取り換え年齢の問題である。「9歳の壁」とは聴覚障害児の学力が小学校3年生頃から停滞する傾向があって、その原因が言語発達の不十分さにあるとされていることをいう。」⁶⁾

最近では、これが健聴の場合にも起こり得ると言われている。

この言語の“壁”については、平成21年6月18日放送のNHKクローズアップ現代においても“10歳の壁を乗り越えろ”というテーマで放送がなされ、9歳から10歳、つまり小学校の4年生前後の勉強についていけない児童が増えていることと、その原因が“考える力”にあることを挙げ、背景としてドリルに依存した学習スタイルや、家庭での会話の減少によるコミュニケーション能力の低下等を指摘している。

大江孝男は『言語学』の著書の中で、

「成人した人間は当然のように言語を操り、言語によって表現内容を諒解するが、この行動は生まれつきではない。生まれたばかりの幼児は言語を知らず言語活動を行うことができないが、成長の過程で身の回りで話されている言語を身につけ、自由に操るようになる。

(中略)

報告されている野生児の記録などからする

と言語の話されている環境で育たないと言語を身につけることは難しくなると考えられている。」⁷⁾

と述べている。

J.A.L. シンク著の野生児の記録『狼に育てられた子、カマラとアマラの養育日記』に見られるようにヒトとして生まれていても人間的な感情や感覚、言語を何ら教えられないまま幼少期を経過した場合、発見後の教育においては、なかなか野生から人間への転換ができず、いかに小さい子供の教育が重要か立証されている。

また、文字言語を習得する上での環境の重要性について、内田伸子は『ことばと学び』の中で次のように述べている。

「子どもは1歳代から文字を使うことの意義を自覚する前に文字に触れ始める。子供は生活や遊びを通じて文字にふれることで、いともたやすく文字を習得してしまう。さらに直接的に教えられるかどうかはあまり重要ではない。日常、本や新聞を読む大人の姿を目にしている文化的環境にある子供の方が読み書く能力が高いという結果も見出されている。

日本では昔から読み書きができることに対する価値付けが高かった。親たちは子供が文字に興味を示し、文字にかかわる活動に従事しているのを目にすると、これを励まし認めようとする。文化が読み書きへの価値付けを行い子供たちが文化に対して興味を持ち、それによって、容易に学習できるようにと仕向けていると考えられよう。」⁸⁾

近年、言語習得や学力向上の為に子供を取り巻く環境が重要であることが問題視され、教育改革が進もうとしている。だが、もうすでにその時期を通過してしまった学生はどうであろうか。

大江孝男はその時期について次のように述べている。

「人間では大脳皮質が非常に発達し、言語に関する皮質領野が左半球にあって、大脳の左半球優位の確立と言語習得とが密接に絡んでいると考えられている。左半球の優位が確立するのは5歳頃とされ、次に左半球損傷の場合右半球の機能代替の可能な時期の限界が11・12歳頃であるという。このような大脳の機能の確立と変質が言語活動に必要な神経のネットワークの発達時期と関連していることが考えられている。」⁹⁾

では、前述のように“9歳～10歳の壁”や大脳機能の発達時期の限界である“11歳～12歳の壁”を通過し高校を卒業してしまった学生はもう手遅れで成すすべは無いのだろうか。親が悪い、教員が悪い、教育制度が悪い、文部科学省が悪い、やらないできた本人が一番悪いと責め立てたところで解決できるわけでもない。

高校の教諭に、美容師国家試験なら難易度が高くなく、頑張れば何とかなるかもしれないと勧められて入学してきた学生の父兄と、話をする機会があった。

「とっても感性がよくって・・・人柄も良く・・・」という私の言葉に「先生、感性や人柄だけでは食べてはいけませんからね。この先、自立し結婚し子供を養って・・・と考えるとどうやってこの子は生きていくんだろって思うんです！」と大きくため息をつかれ「主人は私が悪いって言うんです。あの子を育てた私が悪いのでしょうか。私だけの責任ですか？」と問われた。「ご両親の責任でもあり、私も含め、今まで接してきた教員の責任でもあります。」と答えたが、あの時の父兄の表情が今でも脳裏に焼きつく。残念ながらその学生は、不合格となってしまった。

陰山英男は著書の中で

「ジャーナリストの齊藤貴男が、ゆとり教育が政策として採用される過程を世界史的な経済の転換の中からとらえた「機会不平等」(文芸春秋)はすぐれたルポですが、この中にゆとり教

育路線を推進した三浦朱門・教育課程審議会前会長のこんな発言が紹介されています。」

と次のように紹介している。

「学力低下は予測しうる不安と言うか、覚悟しながら教課審をやりました。いや、逆に平均学力が下がらないようでは、これからの日本はどうにもならないことです。つまり、できん者はできんままで結構。戦後五十年、落ちこぼれの底辺を上げることばかりに注いできた労力を、出来るものを限りなく伸ばすことに振り向ける。百人に一人でいい、やがて彼らが国を引っ張っていきます。限りなくできない非才、無才にはせめて実直な精神だけを養っておいてもらえばいいんです。」(機会不平等40ページ)果たしてそれでいいのでしょうか。限りなくできない非才、無才は実直な精神を「個性の尊重」のなかで養うことができるでしょうか。私は確実にNOと言えます。¹⁰⁾

基礎学力をつけることが子供たちが自分たちの意思で未来を選択していくのにいかに大切かをご自身の調査結果をもとに明らかにしている。

おわりに

美容学校は、学生を美容師として社会へ送り出すための最後の教育現場であり高等教育の場である。前述したように“読み書き算盤能力”の著しく低い学生に対して、親が悪い、教員が悪い、教育制度が悪い、文部科学省が悪い、やらないできた本人が一番悪いと並べたところで、今いる学生の問題は解決しない。

“読み書き算盤能力”が低下し思考の幼稚化した学生が私の前にいる。これはまぎれもない事実である。では、“〇〇の壁”という時期を超えてしまったので“貴方は無理”と決めつけ何もしていかないと、私は断固として首を横に振る。社会へ出る為の最後の教育現場で、なんとか

自立への道を開かせるのが我々教員の仕事と考える。何をどう勉強していいのかわからないでいる学生に対し、私自身が諦めてしまったら、この学生らは“道しるべ”を失ってしまうのではないか。国家試験の直前まで私は諦めない。諦めないというスタンスで学生と接する。このスタンスこそが涙を流しながら合格したいと頑張りを見せる学生にとって、活力となると自負している。

それが結果的に不合格に終わったとしても、ここで培った努力することの習慣は、自己否定し卑下していた自分から、肯定的なやれば出来ると言う精神的にも強い自分へと変貌を遂げ、限りなく広がる学生の未来の“糧”になってくれるものと固く信じている。

引用文献

- 1) 大江孝男『言語学』財団法人放送大学教育振興会、1999年3月20日発行、P10
- 2) 陰山英男、小河勝『学力低下を克服する本・小学校でできること。中学校でできること』文藝春秋、2003年1月30日、P204
- 3) 細野真宏『数学嫌いでも数学的思考力が飛躍的に身につく本』小学館、2008年9月6日発行、P5
- 4) 同上、P17
- 5) 齋藤孝『なぜ子供がキレるのか?』別冊PHP、平成21年発行、P21～22
- 6) 前掲1)『言語学』P28
- 7) 前掲1)『言語学』P25
- 8) 内田伸子『子供の発達と教育1 ことばと学び 響きあい、通いあう中で』金子書房、1996年4月30日、P52～53
- 9) 前掲1)『言語学』P28
- 10) 前掲2)『学力低下を克服する本・小学校でできること。中学校でできること』P89～90

参考文献

- 1) J.A.L. シンク著、中野善達・清水知子訳『野

生児の記録1 狼に育てられた子 カマラとアマラの養育日記』福村出版、1977年3月10日

- 2) 秋山リカ『なぜ日本人は劣化したか』講談社、2007年4月20日
- 3) 堀内都喜子『フィンランドの豊かさのメソッド』集英社、2008年7月22日
- 4) 江澤雅恵・陰山英男『学力は1年で伸びる!』朝日新聞出版社、2008年9月30日
- 5) 小笠原喜康『学力問題のウソ なぜ日本の学力は低いのか』PHP 研究所、2008年9月30日
- 6) 村瀬嘉代子編『聴覚障害者の心理臨床』日本評論社、1999年9月10日
- 7) 陰山英男『徹底反復 陰山メソッド 読み書き計算プリント〔国語・算数小学校3年生〕』小学館、2006年3月10日
- 8) 清水晃一『1日10題 小学4年 計算と漢字』学習研究社、2001年4月1日初版発行

(東萌ビューティーカレッジ専任教員 吉井さとみ)